



確か2019年11月21日の深夜、普段ほとんど気にしないスマホのMessengerに、知り合いの人からYahooニュースのリンクが張られたファイルが飛び込んできました。たまたまスマホが手元にあったので何だろう？ と思って開いてみました。

見ると、「1000万円業務上横領容疑 高砂市の産婦人科医院の元事務局長の男逮捕/兵庫県（サンテレビ）」と記事が書いてあるビデオニュースが、背景の写真は見たことのあると工樂松右衛門旧宅の写真とともに。

どうということ？とリンクを開くと、上記の通り、元産婦人科の事務長をしていた男がその立場を利用して自らの給料を水増しして1000万円を着服、自分の口座に振り込んでいたことが発覚して逮捕された、とのこと。そして最後にこの男は高砂市の観光施設「工樂松右衛門旧宅の現館長、大崎敦紀である」という。

神戸新聞（朝刊） 2019年11月22日 金曜日

工樂松右衛門旧宅。館長の逮捕でイメージダウンが懸念される。高砂市高砂町今津町



高砂市内の病院で事務長の立場を利用し約1千万円を着服したとされる事件で、高砂署が21日に業務上横領容疑で逮捕した大崎敦紀容疑者(60)は古川市加古川町粟津は高砂市の市指定文化財、工樂松右衛門旧宅の初代館長を務めていた。旧宅は昨年6月から公開された。

業務上横領 工樂松右衛門旧宅館長 関係者ら悪影響懸念

開かれ、観光拠点の中核。関係者にショックが広がり、イメージ悪化を懸念する声も上がった。

（社会面参照）
大崎容疑者は、2017年9月に同病院を解雇された後、知人の紹介で旧宅を運営する一般社団法人「高砂市観光交流ビュロー」に採用された。

旧宅のオープンと同時に館長に就任。レトロな雰囲気を生かし、今年4月に新元号「令和」を祝うイベントを企画するなど積極的な施設運営を続けていた。経理関係には直接携わることにはなかったという。

同ビュローの上田真輔事務局長は「施設本来の目的とは違う話題が出ることで、市民らに不安が広がってしまう」と懸念。

「（大崎容疑者から）病院と金銭トラブルになっていたことは聞いていたが、逮捕されるとは…。間違っていたってほしい」と厳しい表情で語った。

なるほど、知人は「工樂さんが高砂市に寄贈した旧宅の初代、そして現館長に、前職の病院事務長時代のことは言え1,000万円を着服して逮捕されるような人物を高砂市が採用していたよ」と言いたかったのだと想像できます。

工樂松右衛門旧宅が、高砂市の立派な観光拠点となるよう文化財保護の重要性をよく理解し、十分な学芸員としての資格を持った有能な人物を館長に採用しているのかと思っていればそうでもなかったことに大きな衝撃をうけました。これを見て、高砂市のこの旧宅に対して持っている方針が分かったような気がします。この旧宅の展示物、展示方法に関する専門知識や、美術館、民族資料等に関する知見などは全く不問で、高砂市が特別に補助金を出して援助していた一バッグメーカーの宣伝に利用できれば良い、と考えているのかも知れません。

その後、ある北前船寄港地の資料館の方からも、「新聞で記事を見ましたよ。工樂松右衛門旧宅の館長として、なぜあのような人を据えたのですか？」と強い叱責を受けました。それに対し、「残念ながら、あの館長の採用はおろか、松右衛門旧宅の運営、企画には、工樂家は高砂市から一切相談を受けていませんし、関わってはいません。経緯も全く知らされていません。あの家の寄付後は、全て高砂市の責任下であり、工樂家の意向は反映されていません」と、お返事しました。

読売新聞（朝刊） 2019年11月22日 金曜日

1000万円着服容疑で逮捕

高砂市ビュロー職員 前の勤務先から

高砂署は21日、以前の勤め先の病院で1000万円を着服したとして、高砂市を業務上横領の疑いで逮捕した。

観光交流ビュロー職員、大崎敦紀容疑者(60)(加古川市)を業務上横領の疑いで逮捕した。

発表によると、大崎容疑者は2004年4月から17年9月ごろまで、高砂市内の産科医院に勤務。事務長として職員らの給与計算などを担当していた16年1月から17年8月までの間、自分の給与を手当などの名目で計約1000万円を水増し、自らの口座に振り込んでいた。

17年8月、年金事務所から医院に届いた書類で、大崎容疑者の報酬額が多くなっているのに医院が気づき、同年12月、同署に相談していた。

大崎容疑者は容疑を否認しているという。

大崎容疑者は、医院を退職後、昨年6月に同ビュローの職員に採用され、観光施設「工樂松右衛門旧宅」の責任者を務めている。

高砂市には、周囲からは様々な点で工樂松右衛門の名前と業績に対してふさわしい、間違いのない、正直な資料を紹介する施設であること期待している人が多いことを肝に銘じて欲しいと願います。北前船の船主たちは全て、「正直、ウソをつかない、真つ当な心」を大事にして商いをしてきた人々です。高田屋嘉兵衛もその一人です。その精神をよくかみしめ、高砂の工樂松右衛門の評価を下げるようなことのないよう、意識していただきたいと思います。